

Project 架け橋

団体概要

【団体正式名称】 Q.E.D.Project 架け橋
(キューイーディープロジェクトカケハシ)

【設立日】 2012年3月8日

【種別】 任意団体

【公式ホームページ】 <http://project-kakehashi.jimdo.com/>

【スタッフ】

代表：田中 惇敏

副代表：林 宏樹

他 8名

【連絡先】 kakehashi.qed@gmail.com (2012.10.1 現在)

ミッションステートメント

東日本大震災から1年が経った現在でも現地ではボランティアの力を必要としていました。ボランティアの人数は少なくなる一方、九州内にはまだまだボランティアに行きたいという学生がいます。また、ボランティア活動は現地の方々のためのみならず、参加した学生にも多くの経験と考える機会を与えることができます。

そこで、Project 架け橋は、「九州と東北を繋ぐ架け橋となる存在になりたい」をキャッチフレーズとして、学生にとって参加しやすいボランティア機会を提供し、九州だからこそ出来る活動を行うことで真の復興を成し遂げ、学生が社会問題の解決に参画できる社会を目指します。



6月先遣隊時、SVAの皆様と共に。

活動指針

●Project架け橋は、**継続的なボランティア活動を目指します！！**

メディアが震災を報じなくなった今、遠く離れた地である東日本大震災の悲劇を忘れずにいることはなかなか難しいものです。しかし、震災から一年以上の時が経過した現在においても、現地では粘り強く継続した活動が必要とされています。それを九州の地でも実現したい。そのために、**一人でも多くの方々に、東北を「経験」してもらいたい。**その後押しとなれる活動を行なっていきます。

●Project架け橋は、**私たちだからこそ出来る活動を行います！！**

私たちはこれまでの活動を通して、現地の方々と深い絆を結んでいます。その一方で、九州の学生であるという特殊な二面性を持ちます。この二面性を生かした事業を行います。すなわち、九州の中にある熱い気持ちを東北に伝えるというものです。これによって、東北と九州に関係性を持たせることが可能になるうえ、現地へ支援金を送る形にすることで支援者が間接的に復興支援に貢献することも達成されるのです。

●Project架け橋は、**より柔軟なボランティア活動の提供を目指します！！**

私たちは、九州に存在する貴重な意思を募って、真に価値のある方向へ向かわせたいと考えています。つまり、現地の復興団体と提携し、現地の実情を理解していただいたうえで活動できるようにしたいということです。というのも、現地でのボランティアの形も震災から一年という時を経て変化しつつあるのです。インフラの復興はかなり進みましたが、「再生」の**後にある「出発」へのパワーがまだまだ足りません。**それらへの支援は、非常に見えづらく、また複雑で繊細なものとなります。私たちが目指す支援はまさにそのようなものです。

活動報告

2012.3.9～2012.4.2

代表・田中、ボランティア活動／先遣活動

主に宮城県気仙沼市でシャンティ国際ボランティア会気仙沼支部（以下 SVA）、気仙沼あそびばーのボランティアスタッフとして活動。被災地の状況を知ると同時に、現地の方の優しさや子どもと触れ合うことにより復興に携わりたと思った。

（写真上:あそびばーの子ども、写真左:現地の方々との交流、

写真右:2012.3.30 の高田病院内）



2012.8.20～2012.9.26 宮城県気仙沼市においてスタッフ・会員 37 名によるボランティア活動 SVA、気仙沼あそびばーと連携して活動。

期間中は代表以外のスタッフと会員が交代で現地に入り活動した。

そのため、各々活動日数は違うが、延べ 291 名の活動を行った。

具体的には地福寺での石庭再生活動（写真上から 1 番目）、南町復興商店街紫市場でのイベント支援（写真上から 4 番目）、蔵内漁港での生業支援、気仙沼あそびばー

での子ども達への支援、復興商店街復幸マルシェでのイベントス

タッフ等、様々な場所でニーズにあったさまざまな活動を行った。

活動内容は現地の方々との交流をすることのできる作業を選び、参加者にも得るものがあるような活動を選んだ。写真上から 2 番目は

休憩中に現地の方々にお話を聞いているところ。また、活動後は毎

晩ミーティング（写真上から 3 番目）を行い、気持ちの整理やシェアの時間を作るなど充実した活動となった。



2012.6.16～2012.6.24

宮城県気仙沼市においてボランティア活動／先遣活動

夏期の活動に備えるためスタッフ 8 名を派遣し、ボランティア活動をするともに現地団体との連携づくり、ニーズの調査を行った。

（写真左:地元漁師の方に招待され一緒に食事、写真右:わかめ養殖手伝い、写真下:復幸マルシェの小野寺茶園にて現地の方と交流）

